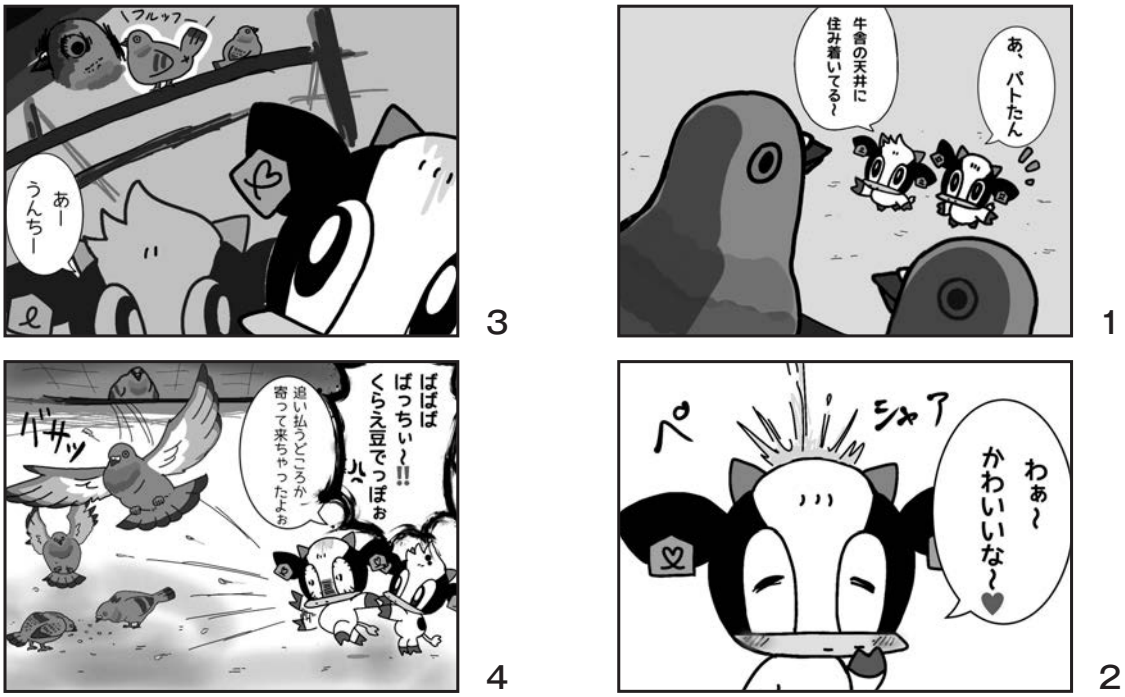
４．おわりに

IETSは、世界中から胚技術関係の研究者・実務者が集まる学会のためにポスター演題数が非常に多く、会場も活気にあふれていました。今回は50周年記念大会ということもあり、基調講演ではIETSや胚技術の歴史を振り返る発表も多く非常に勉強になりました。研究のトレンドとしては、オミクス（トランスクリプトーム、トランスレイトーム、プロテオーム）解析や細胞外小胞、miRNAに着目した報告が多く見受けられました。研究対象としては卵子成熟や受精から胚盤胞期までの発生過程に着目したものが多いですが、胚盤胞期以降の伸長胚や*in vitro*系を用いた着床へのアプローチも増えてきている印象でした。当団では今後も国内外における最新の知見を収集し、実用技術の開発を目指していきたいと思います。

投稿コーナー　みるりる（21）　みるりるとパトたん　作　宮田彩可



※宮田氏は、愛知県刈谷市の清水牧場にお勤めされています。